

第3章 北海道健康増進計画に応じた 札幌圏域の主な取組と役割分担

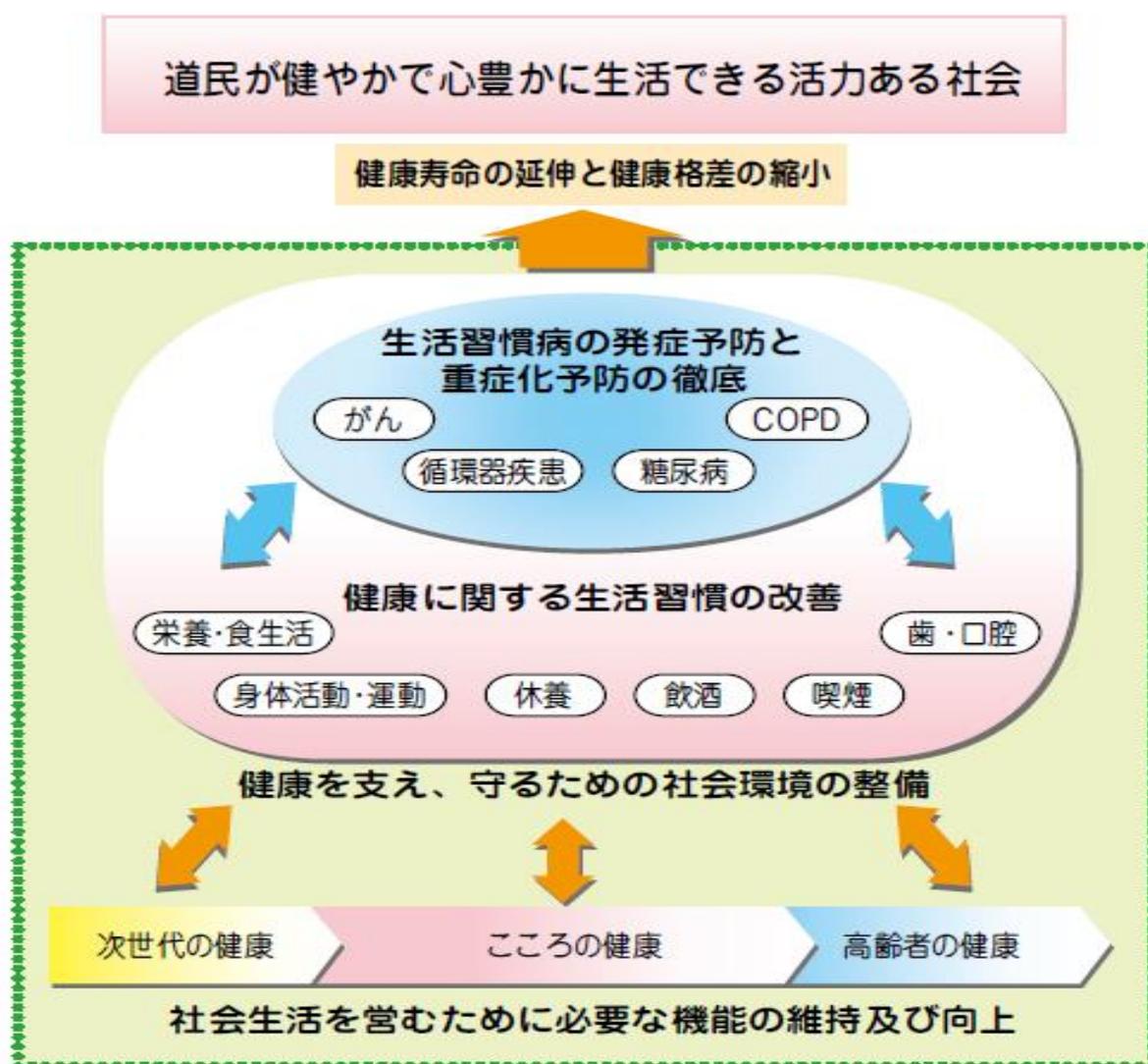
- 1 北海道健康増進計画がめざす姿
- 2 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
 - (1) がん
 - (2) 循環器疾患
 - (3) 糖尿病
 - (4) COPD（慢性閉塞性肺疾患）
- 3 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
 - (1) こころの健康
 - (2) 次世代の健康
 - (3) 高齢者の健康
- 4 健康を支え、守るための社会環境の整備
- 5 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、喫煙、飲酒及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善
 - (1) 栄養・食生活
 - (2) 身体活動・運動
 - (3) 休養
 - (4) 喫煙
 - (5) 飲酒
 - (6) 歯・口腔
- 6 健康寿命の延伸

1 北海道健康増進計画がめざす姿

高齢化の進展及び疾病構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上等により、健康寿命^{*1}の延伸を目指すとともに、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、健康格差^{*2}の縮小の実現を目指し、道民の健康増進を総合的に推進していきます。

^{*1}健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

^{*2}健康格差：地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差



2 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

(1) がん

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・がんの死亡率の減少を目指します。	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少(10万人当たり)	男性 108.5 女性 66.4	全国平均値以下 (H35)
	成人の喫煙率の減少	24.7% 男性 34.6% 女性 16.1%	12.0%以下
・がん検診による早期発見・早期治療を進めます。	がん検診の受診率の向上(40歳以上)		
	ア 胃がん検診	35.0%	50.0%以上(H35)
	イ 肺がん検診	36.4%	
	ウ 大腸がん検診	34.1%	
	エ 子宮頸がん検診(20歳以上)	33.3%	
オ 乳がん検診	31.2%		

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
がん征圧月間やがん予防道民大会を通じたがん予防の普及啓発	○	◎		○	○	○
喫煙の健康影響に関する情報提供 (ホームページ、健康教育教材の作成等)	◎	◎	○	○	○	○
受動喫煙防止のための禁煙・分煙施設の登録推進	◎	○	○	○	○	○
がんの早期発見を促すため、がん検診受診促進の普及啓発	○	◎		○	○	○

【住民の主な取組】

- ◇ がんに関する正しい知識の理解
- ◇ 各種がん検診の積極的受診
- ◇ 受動喫煙防止のため、禁煙・分煙登録施設の活用

(2) 循環器疾患

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
<p>・循環器疾患の死亡者の減少を目指します。</p> <p>・循環器疾患を予防するため、危険因子となる高血圧の改善や脂質異常症を減らします。</p> <p>・特定健康診査及び特定保健指導による疾病の早期発見、早期治療を進めます。</p>	脳血管疾患の年齢調整死亡率(10万人当たり)の減少	男性 34.7 女性 21.0	男性 32.0 以下 女性 20.1 以下
	急性心筋梗塞の年齢調整死亡率(10万人当たり)の減少	男性 14.5 女性 5.5	男性 13.5 以下 女性 5.2 以下
	高血圧の改善(40～89歳) (収縮期血圧の平均値)	男性 136mmHg 女性 130mmHg	男性 134mmHg 以下 女性 128mmHg 以下
	高血圧症有病者の割合(40～74歳)の減少 (収縮期 140mmHg 以上または拡張期 90mmHg 以上、降圧剤服薬者)	男性 58.6% 女性 42.1%	男性 40.0% 以下 女性 30.5% 以下
	正常高値血圧者の割合(40～74歳)の減少 (収縮期 130mmHg 以上 140mmHg 未満または拡張期 85mmHg 以上 90mmHg 未満の者で降圧剤服薬者除く)	男性 22.8% 女性 18.3%	男性 16.4% 以下 女性 14.2% 以下
	脂質異常症の者の割合の減少(40～79歳)		
	総コレステロール 240mg/dl 以上の者の割合	男性 9.7% 女性 21.0%	男性 10.0% 以下 女性 18.0% 以下
	LDL コレステロール 160mg/dl 以上の者の割合	男性 5.7% 女性 9.2%	男性 7.2% 以下 女性 9.5% 以下
	特定保健指導対象者の割合の減少率(メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少)(40～74歳)	該当者 15.3% 予備群 12.1%	H20年度に比較し 25.0%減(H35)
	特定健康診査の実施率の向上(40～74歳)	39.3%	70.0%以上(H35)
特定保健指導の実施率の向上(40～74歳)	13.5%	45.0%以上(H35)	

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
禁煙相談や禁煙を希望する人に対する禁煙支援	◎	◎		◎	○	○
喫煙の健康影響に関する情報提供 (ホームページ、健康教育教材の作成等)	◎	◎	○	◎	○	○
受動喫煙防止のための禁煙・分煙施設の推進	◎	○	○	○	○	○
特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上に向けた取り組み	○	◎		○	◎	○
高血圧、脂質異常、メタボリックシンドロームについての予防の普及啓発	◎	◎	○	○	◎	○
生活習慣病のリスクを高める飲酒についての情報提供などによる適正飲酒の普及啓発	◎	◎		○	○	○
バランスのとれた食事の普及啓発	◎	◎	○	○	◎	◎

【住民の主な取組】

- ◇ 高血圧、脂質異常症、メタボリックシンドロームの予防に関する正しい知識の理解
- ◇ 特定健康診査（健康診断）の積極的受診
- ◇ 特定保健指導の積極的利用
- ◇ バランスのとれた食事の実践
- ◇ 適正な飲酒に関する理解と実践
- ◇ 受動喫煙防止のため、禁煙・分煙登録施設の活用

(3) 糖尿病

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・生活習慣の改善の重要性について普及啓発を進め、糖尿病が強く疑われる者の増加抑制を目指します。	糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数の減少	688人	660人以下
	糖尿病治療継続者の割合の増加(20歳以上)	59.8%	64%以上
	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少(40～74歳) (HbA1cが8.4%以上の者の割合の減少)	0.92%	0.8%以下
・特定健康診査及び特定保健指導による早期発見、早期治療を進めます。	糖尿病が強く疑われる者の割合の減少(40～74歳) (HbA1cがNGSP値6.5%以上または現在、治療中の者の減少)	男性 12.9% 女性 8.4%	男性 19.7%以下 女性 9.0%以下
	特定保健指導対象者の割合の減少率(メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少)(40～74歳)	該当者 15.3% 予備群 12.1%	H20年度に比較し 25.0%減(H35)
・重症化予防のため、「治療継続による血糖値の適正な管理」の重要性についての意識を高めます。	特定健康診査の実施率の向上(40～74歳)	39.3%	70.0%以上(H35)
	特定保健指導の実施率の向上(40～74歳)	13.5%	45.0%以上(H35)

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
バランスのとれた食事の普及啓発	◎	◎	○	○	◎	◎
糖尿病の疾患リスク、治療継続の必要性についての普及啓発	◎	◎		○		○
喫煙の健康影響に関する情報提供 (ホームページ、健康教育教材の作成等)	◎	◎	○	◎	○	○
禁煙相談や禁煙を希望する人に対する禁煙支援	◎	◎		◎	○	○
特定健康診査・特定保健指導の受診率向上の取り組み	○	◎		○	◎	○

【住民の主な取組】

- ◇ 糖尿病や肥満の予防に関する正しい知識の理解
- ◇ 特定健康診査（健康診断）の積極的受診
- ◇ 特定保健指導の積極的利用
- ◇ バランスのとれた食事の実践
- ◇ 受動喫煙防止のため、禁煙・分煙登録施設の活用

（４）COPD（慢性閉塞性肺疾患）

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・COPDという疾患の道民の認知を高めます。	COPDの認知度の向上	25.4%	80.0%以上
	(再掲)成人の喫煙率の減少	24.7% 男性 34.6% 女性 16.1%	12.0%以下

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
COPDに関する普及啓発	◎	◎	○	○	○	○
「喫煙」領域と合わせた取り組みの実施	◎	◎	○	○	○	○

【住民の主な取組】

- ◇ COPDの理解と発症予防の実践

3 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

(1) こころの健康

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・精神保健相談などを通じ、ストレス要因の軽減や対応を適切に行い、こころの健康の保持・増進を図ります。	自殺者数の減少（10万人当たり）	17.5 (H28)	12.1 以下 (H39)
	気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少（20歳以上）	9.8%	7.4% 以下
	メンタルヘルスに関する措置を受けられる職場の割合の増加（50人以上の事業所）	50人以上*1 80.7%	100% (H32)
	小児科医・精神科医・心療内科医数の割合の増加（小児人口10万人当たり）	3科合計 221.7	増加

*1 労働安全衛生法の改正により当面50人以上の事業所に、ストレスチェックの実施が義務づけられたことによる人数の変更

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
こころの健康に関する相談窓口の充実	◎	◎	○	○	○	○
地域における自殺予防対策の取り組みの推進	◎	◎	○	○	○	○
学校・職場における相談・研修の充実	○	○	◎	○	◎	
こころの健康に関する知識を周知するための普及啓発	◎	◎	○	○	○	○
笑いによる健康づくりの普及啓発	◎	○	○		○	

【住民の主な取組】

- ◇ こころの健康相談窓口や職場における相談・研修の活用
- ◇ こころの健康に関する正しい知識の理解
- ◇ ストレスに関する理解と実践

(2) 次世代の健康

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・適正な食習慣や運動習慣を有する子どもの割合を増やします。	健康な生活習慣（栄養・食生活、運動）を有する子どもの割合の増加		
	朝食を摂取する児童の割合の増加(小学6年生)	84.9%	すべての児童が朝食を食べることをめざす
・妊娠前・妊娠期における適正体重の維持や喫煙、飲酒習慣の改善を進めます。	「体育の授業以外で1週間に運動・スポーツの総運動時間が60分以上」と答えた児童の割合の増加	【参考】*1 男子 93.1% 女子 88.5%	100%
	適正体重の子どもの割合の増加 ・全出生数中の低出生体重児の割合の減少	9.2%	減少
	妊婦の喫煙率の減少	6.3%	0%
	産婦の喫煙率の減少	8.4%	0%
	妊婦の飲酒率の減少	1.4%	0%

*1 調査方法の変更による参考値

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
学校・家庭・地域の連携による子どもの健康的な生活習慣形成の普及や体力・運動能力向上の推進	○	○	◎			○
子どもや妊産婦に対するバランスのとれた食事の普及啓発	○	◎	◎	◎	○	○
子どもや妊産婦に対するたばこや飲酒が及ぼす健康への影響に関する普及啓発	○	◎	◎	◎	○	○

【住民の主な取組】

- ◇ バランスのとれた食事の理解と実践
- ◇ 運動習慣の必要性の理解と実践
- ◇ 妊産婦の禁酒・禁煙の実践

(3) 高齢者の健康

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・高齢者の健康づくりを進めます。	適正体重を維持している者の増加		
	ア 65歳以上の肥満の割合(BMI25以上)の減少	男性 38.4% 女性 32.5%	減少
	イ 65歳以上のやせ傾向の割合(BMI20以下)の減少	男性 10.8% 女性 14.9%	
	65歳以上の日常生活における歩数の増加	男性 5,395歩 女性 4,915歩	男性 7,000歩以上 女性 6,000歩以上
	口腔機能の維持・向上 60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	【参考】*1 66.8%	80%以上

*1 調査方法の変更による参考値

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
老人クラブが行う社会奉仕活動や健康づくりへの支援	○	○				◎
身体活動や体力維持のための運動の普及啓発	○	◎				◎
口腔機能向上のための普及啓発	○	◎		◎	○	◎
適正体重の維持・管理のため、バランスのとれた食事の普及啓発	◎	◎		◎	○	◎

【住民の主な取組】

- ◇ 体力維持向上のための運動事業への参加
- ◇ 適正体重の維持・管理のためのバランスのとれた食事の実践
- ◇ 定期的な歯科健診と口腔ケアの実践

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・「北海道健康づくり協働宣言団体」の登録の増加を図ります。	健康づくりに関する普及啓発や相談など道民の健康づくりを支える「北海道健康づくり協働宣言」団体の登録数の増加	56 団体	増加

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働						
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体	住民
自主的に健康づくり活動を行う団体や企業の増加及び環境整備推進	◎	○			○	○	

5 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、喫煙、飲酒及び歯・口腔の健康に関する生活習慣の改善

(1) 栄養・食生活

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
<p>・適正な栄養摂取を進め、肥満や若年女性の「やせ」を減らします。</p> <p>・道民が栄養バランスのとれた食生活を実践できるよう食環境の整備を推進します。</p>	適正体重を維持している者の増加 (肥満：BMI 25 以上、やせ：BMI 18.5 未満)		
	20～60 歳代男性の肥満者の割合の減少	40.9%	28.0% 以下
	40～60 歳代女性の肥満者の割合の減少	25.3%	24.0% 以下
	20 歳代女性のやせの者の割合の減少	32.0%	20.0% 以下
	適切な量と質の食事をとる者の増加(20 歳以上)		
	食塩摂取量の減少	10.0%	8g 以下
	野菜摂取量の増加	272g	350g 以上
	果物摂取量 100g 未満の者の割合の減少	61.0%	30.0% 以下
	脂肪エネルギー比率が 25.0% 以上の者の割合の減少	男性 46.4% 女性 55.7%	男性 19.7% 以下 女性 31.1% 以下
	朝食をとらない*1 者の割合の減少(全年代)	男性 11.6% 女性 7.6%	男性 4.0% 以下 女性 2.4% 以下
食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む食品企業及び飲食店の登録数の増加	3,859 件	増加	
利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価、改善を実施している特定給食施設の割合の増加	83.7%	85.0% 以上	

* 1 朝食をとらないとは、「食事をしなかった場合」、「錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合」、「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」のいずれかの場合

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
バランスのとれた食事の普及啓発	◎	◎	○	○	◎	◎
野菜摂取量増加に向けた普及啓発	◎	◎	○	○	○	◎
栄養成分表示の店の登録促進	◎	○				○

【住民の主な取組】

- ◇ バランスのとれた食事の実践
- ◇ 積極的な野菜の摂取
- ◇ 栄養成分表示の活用

(2) 身体活動・運動

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・日常生活における身体活動量の確保や運動習慣の定着化を目指します。	運動習慣者の割合の増加 (週2回以上30分以上の持続運動で1年以上継続している者)		
	20～64歳	男性 23.4% 女性 19.2%	男性 40.7%以上 女性 39.7%以上
	65歳以上	男性 46.3% 女性 41.9%	男性 59.2%以上 女性 52.2%以上
	日常生活における歩数の増加		
・道民が身近なところで運動できる環境整備とその活用促進を図ります。	20～64歳	男性 7,713歩 女性 6,588歩	男性 9,000歩以上 女性 8,500歩以上
	65歳以上	男性 5,395歩 女性 4,915歩	男性 7,000歩以上 女性 6,000歩以上
	すこやかロード登録コース数の増加	90市町村 181コース	増加

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
ノルディックウォーキングやウォーキングなどの運動の普及啓発	◎	◎	○	○	○	◎
すこやかロード事業の推進	◎	◎				◎

【住民の主な取組】

- ◇ ウォーキングなどの積極的な運動の実践
- ◇ すこやかロードの活用

(3) 休養

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・睡眠による休養を十分取れない人を減らします。	睡眠による休養を十分にとれていない者の割合の減少(20歳以上)	20.0%	15.0%以下

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体		○ 連携・協働			
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
睡眠・休養の正しい知識の普及啓発	◎	◎	○	○	○	○

【住民の主な取組】

◇ 睡眠や休養に関する正しい知識の理解と実践

(4) 喫煙

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・喫煙が及ぼす健康への影響について普及啓発を図ります。	(再掲)成人の喫煙率の減少	24.7% 男性 34.6% 女性 16.1%	12.0%以下
	喫煙経験のある未成年者*1の割合の減少		
・未成年者*1の喫煙をなくします。	中学1年生	男子 0.5% 女子 0.2%	0%
	高校3年生	男子 0.8% 女子 0.5%	0%
・妊産婦の喫煙をなくすとともに、女性の喫煙率を低下させます。	(再掲)妊婦の喫煙率の減少	6.3%	0%
・たばこを止めたい人に対するサポート体制を充実します。	(再掲)産婦の喫煙率の減少	8.4%	0%
・官公庁施設、飲食店その他の多くの人々が利用する施設において、受動喫煙によるリスクを減らします。	日常生活で受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	公共施設 8.9% 家庭 18.4% 職場 25.2% 飲食店 41.7%	行政機関 0% 医療機関 0% 家庭 3.0%以下 職場 受動喫煙のない職場の実現(H32) 飲食店 15.0%
	おいしい空気の施設登録数の増加	4,935施設	増加

*1 未成年者：20歳未満の者

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体		○ 連携・協働			
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
禁煙相談や禁煙を希望する人に対する禁煙支援	◎	◎		◎	○	○
喫煙の健康影響に関する情報提供 (ホームページ、健康教育教材の作成等)	◎	◎	○	◎	○	○
たばこをやめたい人への相談窓口や学校と連携した未成年者喫煙防止教室などのたばこ対策事業の推進	◎	◎	◎	○		○
妊産婦に対するたばこの健康被害の普及啓発の推進	○	◎		○		○
受動喫煙防止のための禁煙・分煙施設の推進	◎	○	○	○	○	○
行政機関、医療関係団体、住民団体などと連携した日常生活における受動喫煙防止の促進	◎	◎		○	○	○

【住民の主な取組】

- ◇ 禁煙相談窓口の活用
- ◇ 禁煙の実践
- ◇ 受動喫煙防止のため、禁煙・分煙登録施設の活用

(5) 飲酒

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・生活習慣病のリスクを高める飲酒などが及ぼす健康への影響について意識を高めます。 ・未成年者*1 や妊婦の飲酒を無くします。	生活習慣病のリスクを高める量（1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上）を飲酒している者の割合の減少（20歳以上）	男性 18.2% 女性 12.0%	男性 17.7%以下 女性 8.2%以下
	飲酒経験のある未成年者*1の割合の減少（過去1か月）		
	中学3年生	男子 1.3% 女子 1.2%	0%
	高校3年生	男子 5.1% 女子 5.9%	0%
	(再掲)妊婦の飲酒率の減少	1.4%	0%

*1 未成年者：20歳未満の者

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
生活習慣病のリスクを高める飲酒についての情報提供などによる適正飲酒の普及啓発	◎	◎		○	○	○
未成年者*1 や大学生など若い世代を対象としたアルコールに関する健康教育	○	○	◎	○		○

【住民の主な取組】

◇ 適正な飲酒に関する理解と実践

(6) 歯・口腔

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
<p>すべての道民が、自ら歯・口腔の健康の維持増進に努めるとともに、住み慣れた地域において生涯を通じて必要な歯科保健医療サービスを利用しながら、健康の維持増進ができるよう支援する環境づくりを行うことを基本方針とし、食べる楽しみがいつまでもつづく生活の実現を目指します。</p>	(再掲)口腔機能維持・向上 60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	【参考値】*1 66.8%	80.0%以上
	歯の喪失防止 60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合の増加 (55～64歳)	48.0%	60.0%以上
	乳幼児・学齢期のむし歯のない者の割合の増加		
	むし歯のない3歳児の割合の増加	82.9%	90.0%以上
	12歳児のむし歯数の減少 (1人平均むし歯数)	1.5本	1.0本以下
	過去1年間に歯科健診を受診した者の増加(20歳以上)	28.3%	40.0%以上

*1 調査方法の変更による参考値

【行政・関係機関の主な取組】

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働					
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体
保育所・学校等におけるフッ化物洗口の推進	◎	◎	◎	○		○
乳幼児・児童生徒が定期的に歯科健診・保健指導を利用できる機会の確保	○	◎	◎	○		○
定期的歯科健診とプロフェッショナルケア*2の推進	○	○		◎	○	○
口腔機能向上のための普及啓発	○	◎		◎	○	◎

*2 プロフェッショナルケア：歯科専門職による機械的歯面清掃

【住民の主な取組】

- ◇ フッ化物洗口の実践
- ◇ 定期的な歯科健診の受診
- ◇ 口腔ケアの積極的な実践

6 健康寿命の延伸

北海道の目標	北海道の指標	北海道の現状値	北海道の目標値
・健康寿命の延伸 を目指します。	健康寿命（日常生活に制限のない期間）の延伸	男性 71.11 年 女性 74.39 年	増加
	平均寿命と健康寿命の差の縮小	男性 8.76 年 女性 11.88 年	減少

札幌圏域の主な取組	◎ 主体 ○ 連携・協働						
	保健所	市町村	教育	医療	職域	団体	住民
14 領域における事業の推進	◎	◎	○	○	○	○	○